



# 予防接種は こんなときに

予防接種というと、子どもだけが関係するよう  
に思う人もいるかもしれませんが、そうでも  
ないのです。どんな場面で必要か当院の予防接  
種外来で扱っている例から紹介します。

## 海外旅行・海外赴任

最近では企業のアジア方面の進出が結構あり、赴任を控えて予防接種を受けに行く方がたくさんいます。希望されるものが多いのは、「A型肝炎」「B型肝炎」「破傷風」「狂犬病」です。「A型肝炎」は飲み水や生ものを飲食してかかります。「B型肝炎」は清潔でない医療行為や性的な接触からうつります。「破傷風」は土壌に  
いる菌で畑やごみ捨て場などで怪我をすると危険です。「狂犬病」は外国（大陸）にはまだ多く、海外ではうっかり犬に手を出したりしないように  
と言われています。

これらの予防接種は不活化ワクチンで一カ月間隔でまず二回。半年から一年後にもう一回が基本です。最低基礎免疫の二回が必要です。日程が厳しいときは二本の注射をいっぺんにすることもできますが、二回するには最低一カ月は必要です。で、なるべく早めに相談に来て下さい。

## 海外留学

アメリカ合衆国に行く高校生が一番多いのですが、日本でおこなっているよりも要求される回数が多いことがあります。「ポリオ」を四回とか「はしか」を二回とか、「B型肝炎」が必要な州

もあります。「おたふくかぜ」にかかったか血液検査が必要なこともあります。

これもなるべく早く相談に来て下さい。

## おとなでも油断できない感染症

一番問題になるのは妊娠中の「風疹」で、時期によっては胎児に障害が出る場合があります。

予防接種で九〇数%は防げる病気ですから、女性には結婚前に確認して、今までかかってない人、予防接種を受けてない人は必ず受けて下さい。今の二〇歳前後の年代は「風疹」の予防接種の制度の谷間にあたり、接種率が低くなっています。気をつけて下さい。

おとなでも「おたふくかぜ」や「水ぼうそう」に罹っていない人が少なからずいます。よくあるのは、保育園や幼稚園に行っている子どもさんがこれに罹り、親があわてて相談にくるケースです。残念ですが、子どもが発症してから予防接種をしてもまず間に合いません。そつなる前につけに来て下さい。

## インフルエンザ

接種はここ数年見直され、自治体も高齢者には補助をして積極的に推進しています。インフルエンザは普通の「かぜ」に比べて症状が重く、肺炎

を起こすことも稀ではありません。特に高齢者でかつ心臓・肺の病気や糖尿病を持っていると肺炎をお越し、亡くなることもあるので、予防接種が大事です。高齢者では有効率は八〇%以上と言われています。

もう一つ、インフルエンザで問題になるのは幼児の脳症です。四歳までに多く、全国で一年間数十人の発生数といわれていますが、死亡率が三〇%と言われ、子どものいる家では心配です。

しかし、残念なことに小さい子ではインフルエンザの予防率は低く、二〇%くらいというデータが一般的です。従って小さい子どもへの予防接種とともに、周りの人が家に持ち込まないことが大事になります。

小・中学生以上、青年は申し訳ありませんが、インフルエンザで苦しむことはあっても死亡するようなことはほとんどありません。ただ周りに病気を持った高齢者や小さいお子さんがいる方は予防接種をしておく意義があります。

当院ではこのようにいろいろな予防接種を扱っています。相談がございましたら気軽にお尋ね下さい。